

令和8年度日進市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、耕地の約7割が水田で、農業の主力は稲作である。しかし、名古屋市東部に隣接する地理的条件もあり、ほとんどの農家が第二種兼業農家で、1戸あたりの耕地面積は狭小である。高齢化や後継者不足の影響もあり、JA 関連会社への利用集積や作業委託が増加するとともに、遊休農地も増えている。また、水稻以外の大豆や野菜などの作物は、産直施設への出荷など小規模な作付が中心である。麦については、JA 関連会社による作付が主となっている。

こうした状況を踏まえ、需要に応じた米生産の推進と、水田の高度利用による面積維持が求められる。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は耕地の約7割が水田であるため、水田作の担い手の一部が野菜類の生産に取り組んでいるものの、小規模な取組が中心である。高収益作物の振興には新たな担い手の確保が必要であるが、条件の良い畑地として新規就農者が利用できる農地は限られている。そのため、水稻の大規模生産法人の農閑期における高収益作物の栽培を支援することで、産地の育成を図る必要がある。

また、日進市農山漁村発イノベーション推進戦略に基づき、6次産業化の推進にも取り組む。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要減少が進む中、担い手への農地集積を進め、需要者の要望に応じた麦や米粉用米への作付け転換を推進する。なお、耕地の約7割を占める水田の大部分は畑地化に不適な土壌であるため、畑地化の進展は限定的である。そこで、水田の利用状況を農業者からの申告や関係団体との情報交換により点検・把握し、農業者や関係団体と協議のうえ、必要に応じて畑地化へ誘導し、高収益作物等の導入・定着を支援する。

また、畑地化の支援を進める一方で、適正な水稻作付の維持を図るため、農業者や農事組合法人等と連携し、必要に応じて農用地利用集積増進計画による利用権設定を活用することで、水稻作付水田と転換作物作付水田のブロックローテーションを推進する。

主食用米については、昨年度の米価高騰があったものの、全体としては需要減少が続いており、こうした状況も踏まえた水田の有効利用が求められる。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

低農薬の米作りの推進により、米の主産地としての地位を確保する。
また、新品種にも取り組むことにより新たな需要を開拓する。

(2) 備蓄米

取り組みなし

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

取り組み無し

イ 米粉用米
コンタミネーション防止の観点から、主に主食用品種で対応し、産地交付金を活用して所得向上を図るため、生産性および品質の向上に取り組む。

ウ 新市場開拓用米
取り組みなし

エ WCS 用稲
取り組みなし

オ 加工用米
取り組みなし

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については水田農業の経営安定のため、2021 年度から取組を開始し、作付目標を麦 3.0ha、大豆 0.15ha とする。

(5) そば、なたね
取り組みなし

(6) 地力増進作物
取り組みなし

(7) 高収益作物
産地交付金を活用し、地域振興作物として野菜、花き・花木の作付を推進し、令和 8 年度には野菜については 5.05ha の生産、花き・花木については生産の拡大を目指す。

5 作物ごとの作付予定面積等	～	8 産地交付金の活用方法の明細
----------------	---	-----------------

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	221		214		210	
備蓄米	0		0		0	
飼料用米	0		0		0	
米粉用米	3		3		3.1	
新市場開拓用米	0		0		0	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	0		0		0	
麦	3	3	3	3	3.1	3.1
大豆	0.1		0.15		0.2	
飼料作物	0		0		0	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	0		0		0	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		0	
高収益作物	4.9		5.05		5.2	
・野菜	4.8		4.9		5	
・花き・花木	0.1		0.15		0.2	
・果樹	0		0		0	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他						
・〇〇						
畑地化	0		0		0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	野菜 （基幹作）	担い手による高収益作物生産への支援	野菜作付面積	（7年度）477a	（8年度）480a
2	花き （基幹作）	担い手による高収益作物生産への支援	花き作付面積	（7年度）3a	（8年度）15a
3	麦 （基幹作・二毛作）	麦の高付加価値化対策	G A P 取組面積	（7年度）294a	（8年度）300a
4	米粉用米 （基幹作）	米粉用米の低コスト技術栽培	低コスト技術の面積	（7年度）294a	（8年度）200a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:愛知県

協議会名:日進市地域農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取組要件等 ※4
1	担い手による高収益作物生産への支援	1	4,500	野菜(別表のとおり、基幹作)	収穫した作物を出荷・販売していること等
2	担い手による高収益作物生産への支援	1	2,000	花き(別表のとおり、基幹作)	収穫した作物を出荷・販売していること等
3	麦の高付加価値化対策	1	1,900	麦(基幹作)	GAP(JAあいち経済連版)に取組んでいること等
3	麦の高付加価値化対策	2	1,900	麦(二毛作)	GAP(JAあいち経済連版)に取組んでいること等
4	米粉用米の低コスト技術栽培	1	1,000	米粉用米(基幹作)	不耕起V溝直播栽培等の直播栽培等

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

産地交付金の活用方法の明細(個票)

野菜一覧	
対象作物	さといも
	はくさい
	なす
	トマト
	きゅうり
	すいか
	プチヴェール
	ねぎ
	たまねぎ
	かぼちゃ
	だいこん
	にんじん
	とうもろこし
	キャベツ
	とうがん
	ピーマン
	ほうれんそう
	レタス
	れんこん
	おくら
	ブロッコリー
	メロン
	いちご
	シソ
	ジネンジョ
	さつまいも
	じゃがいも
	枝豆

花き一覧	
対象作物	キク
	バラ
	カーネーション
	ツツジ
	パンジー
	ペチュニア
	シクラメン
	ラン
	観葉植物
	チューリップ
	ユリ